



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴鳥イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

3月の行事予定

Calendar table for March with dates and event names like 'スタディーサポート(1年)', '第60回卒業式', '入学学力検査場設営', etc.

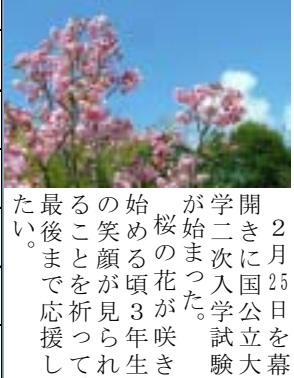
伝統に連なる者達へ 教頭 岡留秀一
NHKの大河ドラマ「篤姫」が好評であった。視聴率や世間での取り上げられ方を見ると人気があったと言ってよいだろう。歴史的な観点から見ると、篤姫が生きた時代に、身分の違う一(おかつ)、尚五郎、吉之助、正助の四人が直に会ったかとは疑問であるが、「篤姫」を見ていくことで、高校時代に習った幕末から明治への流れがより明確になることは楽しみの一つでもあった。

鶴丸高校にも誇るべき百十四年の長い歴史と伝統があり、多くの先輩達が長い時間をかけて作り上げてきた鶴丸文化がある。今と幕末を比べること自体ナンセンスと思うが、当時とは比較にならないほど社会や経済、文化等々グローバル化は進んでいる。今後ますます地球規模での交流が進んでいくだろう。そして地球社会の一員として活躍する人々には、活躍の舞台にふさわしい教養と専門的知識が求められるだろう。君たちも、先人達が薩摩で教養や知識を高めてきたように、鶴丸の環境の中で己を磨いていってほしい。また、三年生は、鶴丸で過ごしたことを自信として新たな環境でも己を磨いてほしい。

校内弁論大会
2月16日の7限目に、平成20年度の校内弁論大会が行われた。クラス審査、学年審査を経て、合計6名の弁士が選出された。
15Rの養田詩織さんは「小さな命の輝き」と題して命の尊さを、5Rの伊地知悟くんは「仮面と「うん何となく」というタイトルで人間性とは何かを自問自答した。12Rの松元綾子さんは「話そうよ」を通して、日常の中から幸せを見つめるヒントを私たちに示してくれた。優秀賞には22Rの萩原由香さんの「故郷」、24Rの前野孝明さんの「自分の自分による、自分のための授業の生かし方」が選ばれた。萩原さんは、鹿島のシンボル桜島を例にとり故郷は愛すべき特別な場所であると謳い、前野くんは授業の積極的な受け方を独特な口調で語り上げた。どちらの作品も彼らのオリジナリティがあふれ出たものであった。

一学年進路講演会
1月28日(水)、河合塾の別府正彦先生を講師にお招きして、「現役合格の為に何をすべきか」という演題で1学年進路講演会が行われた。志望校に現役合格するためには「①自分が満足する学習時間を生活の中で習慣化すること。②志望校を決めること。③大学や入試の情報を自分から積極的に取りに行くこと。④勉強するうえで、理屈をわかって記憶をすること。⑤精神的に「大人」になること。」という五項目が大切であるということと述べられた。特に⑤については、「大学入試は、大人になる通過点です。大人とは「やりたいことをやること」より「やらなければならないことをやる」ということが優先できる人です。自分自身です。そして君たちです。自分自身です。受験に繋がっているということと、「大人」になることの必要性を熱く語ってくださいました。生徒からは「今日の講演は本当に現実を見せつけられた気がした。自分の夢の実現はとても難しいもので、かなりの努力を要するのに行動できていなかったのではない」とか、「行動しなくてはならない」とか、「別府先生のお言葉にシンプルながら強い衝撃を受けた」という感想が聞かれ、1学年のこの時期に自分を省みて2学年へとつなげる良い機会となったようだ。

二学年進路講演会
2月6日(金)、駿台予備学校の吉田直史先生を講師にお招きして「夢を掴め!」難関大を目指して」という演題で2学年の進路講演会が行われた。
三月二日、第六十回卒業式を迎える。
親思う心にまさる親心
今日のおとづれ何と聞くらん



三年生二次試験が始まる
2月25日を目前に国立大学二次入学試験が始まった。桜の花が咲き始める頃3年生の笑顔が見られることを祈って、最後まで応援したい。